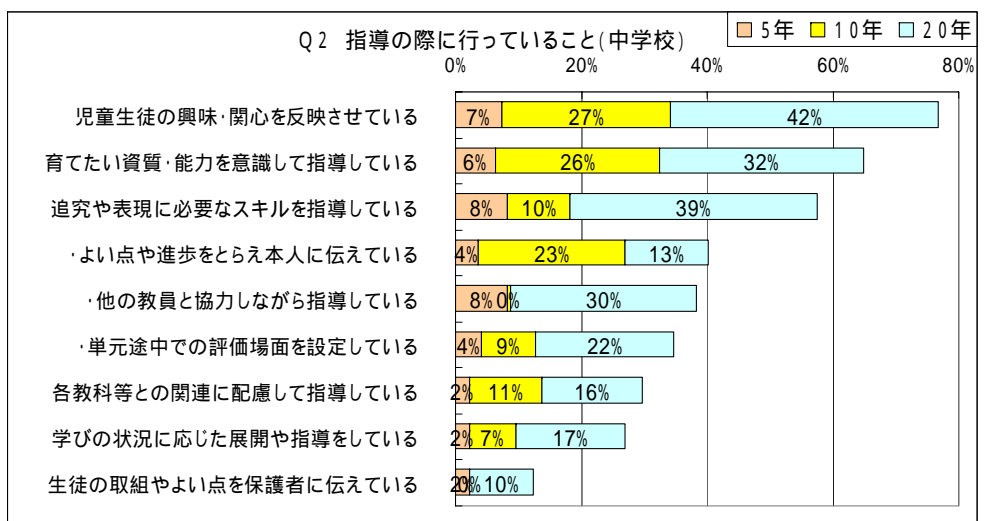
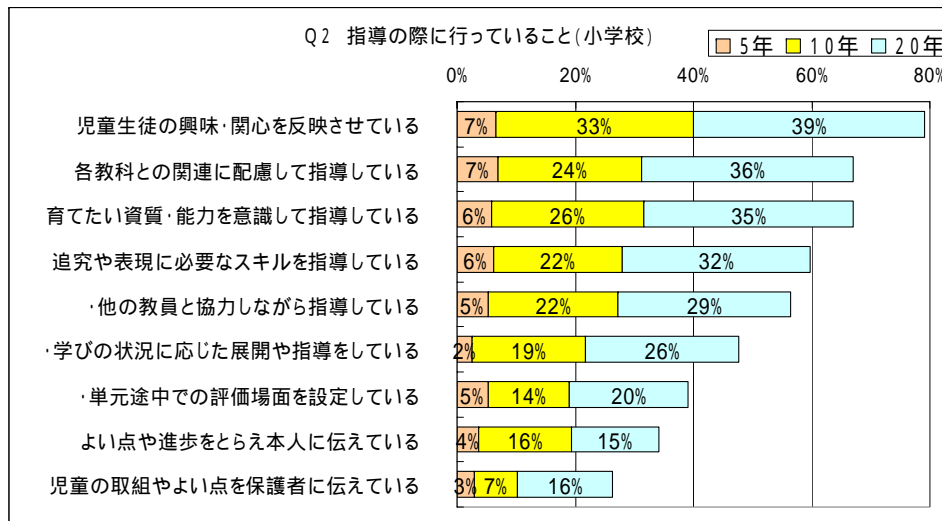


## 2 「総合的な学習の時間」における指導

興味・関心を学習に反映させるとともに、育てたい資質や能力を意識して指導している。  
評価に関する取組は十分ではない。

約8割の教員が、児童生徒の興味・関心をテーマや学習に反映させている。また、育てたい資質・能力を意識しながら、追究や表現に必要なスキルを指導している。しかし、児童生徒の取組やよい点を本人や保護者に伝えたり、指導に生かしたりする取組については十分ではない。

### Q2 あなたは、「総合的な学習の時間」を指導する際に、以下のことを行っていますか。(複数回答)



\* ~ は、各設問における選択肢の番号

回答数243

Q2(1)小学校	教職経験			*指導のやりがい(Q1)別						
	5年	10年	20年計	5年	10年	20年計	肯定	否定	計*	
Q2 指導の際に行っていること(小学校)										
3 児童生徒の興味・関心を反映させている	7%	33%	39%	16	81	95	192	58%	15%	73%
2 各教科との関連に配慮して指導している	7%	24%	36%	17	59	87	163	53%	11%	64%
1 育てたい資質・能力を意識して指導している	6%	26%	35%	14	63	86	163	52%	11%	63%
5 追究や表現に必要なスキルを指導している	6%	22%	32%	15	53	77	145	47%	8%	56%
8 他教員と協力しながら指導している	5%	22%	29%	13	53	71	137	42%	10%	52%
4 学びの状況に応じた展開や指導をしている	2%	19%	26%	6	47	63	116	39%	6%	45%
7 単元途中での評価場面を設定している	5%	14%	20%	13	33	49	95	30%	7%	37%
6 よい点や進歩をとらえ本人に伝えている	4%	16%	15%	9	38	36	83	26%	5%	31%
9 児童の取組やよい点を保護者に伝えている	3%	7%	16%	7	18	39	64	20%	4%	24%
10 その他	0%	0%	2%	1	1	6	8	2%	1%	3%

\*指導のやりがい(Q1)別の値は、Q1での無回答を除く。

回答数219

Q2(1)中学校	教職経験			*指導のやりがい(Q1)別						
	5年	10年	20年計	5年	10年	20年計	肯定	否定	計*	
Q2 指導(中学校)										
3 児童生徒の興味・関心を反映させている	7%	27%	42%	16	59	93	168	43%	29%	73%
1 育てたい資質・能力を意識して指導している	6%	26%	32%	14	57	71	142	41%	32%	72%
5 追究や表現に必要なスキルを指導している	8%	10%	39%	18	22	86	126	35%	25%	60%
6 よい点や進歩をとらえ本人に伝えている	4%	23%	13%	8	51	29	88	37%	17%	54%
8 他教員と協力しながら指導している	8%	0%	30%	18	1	65	84	19%	15%	34%
7 単元途中での評価場面を設定している	4%	9%	22%	9	19	48	76	20%	10%	30%
2 各教科等との関連に配慮して指導している	2%	11%	16%	5	25	35	65	16%	9%	24%
4 学びの状況に応じた展開や指導をしている	2%	7%	17%	5	16	38	59	14%	10%	24%
9 生徒の取組やよい点を保護者に伝えている	2%	0%	10%	1	0	22	27	13%	7%	21%
10 その他	0%	0%	1%	1	1	0	2	0%	0%	0%

55% 45% 100% 120 99 219

## Q2 「総合的な学習の時間」における指導

「児童生徒の興味・関心を反映させている」が最も多く、小・中学校ともに約8割の教員が回答している。「育てたい資質・能力を意識して指導している」、「追究や表現に必要なスキルを指導している」の回答も多い。(6割から7割)

中学校の教職10年目研修受講者では、「育てたい資質や能力を意識して指導している」、「よい点や進歩の状況をとらえて本人に伝えている」と回答している教員の割合が高い。

「単元途中で自己評価や相互評価を行う場面を設定している」、「よい点や進歩の状況をとらえ本人に伝えている」と回答している教員は、3～4割にとどまっている。また、「学びの状況に応じた展開や指導をしている」は、小学校では約5割、中学校では約3割である。さらに、「児童生徒の取組やよい点を保護者に伝えている」は、小学校では約2割、中学校では1割にも満たない。

・評価に関する取組が行われるようになってきてはいるが、まだ十分に組み立てていない教員も多い。よい点や進歩の状況等を児童生徒が自覚し、よりよい学習につなげていくことができるよう、保護者への情報提供も含め、評価の工夫や適切な指導について充実させていくことが課題である。

「各教科との関連に配慮して指導している」、「他の教員と協力しながら指導している」については、校種の違いによる差が大きく、小学校では約6割だが、中学校では約3割である。中学校における教科・教員間の連携の難しさがうかがえる。